

知事との県民対話集会（野沢温泉村）概要

- ・開催日時 令和4年10月21日（金） 午後5時30分から午後7時まで
- ・会場 野沢温泉役場 会議室
- ・参加者 県民30名、富井野沢温泉村長、阿部知事、直江北信地域振興局長
- ・テーマ コロナ後の観光振興について

・主な発言（要旨）

【参加者】

・村のポイントカード（ゆ〜ゆ〜カード）は、地域通貨としての地位を目指している。観光客の利用率を高め、地域貢献やイベント参加などでの利用も考えている。システム構築や環境整備への支援、モデル地区としてのバックアップは可能か。

・全県の路線バスのICカード化という記事が出ていたが、互換性があるとありがたい。

【知事】

・元気づくり支援金の先のさらなる発展形について一緒に考えていきたい。例えば、地域通貨を使えば他ではできない体験ができる等、使う側・貯める側の双方に工夫の余地があると思う。県でどういう協力をすればいいか、ご提案いただきたい。

【参加者】

・インバウンド受入に当たり、マスク着用に関する日本人と外国人の認識が違う。混乱を避けるため、国や県、業界などでガイドラインを示す必要もあると思うがどうか。

・マスク等の問題は、外国人観光客とのトラブルも考えられる。長野県としての対応は。

【知事】

・県では、屋外の場合近くで話すとき以外はマスクをしなくてもよいと言っている。感染が収まっている時にマスクを外すことを進めようと思ったが、昨日、医療警報を発出する状況となってしまった。

・長野県だけマスクをつけなくてよいというわけにもいかないの、全国知事会にも提起していきたい。

【参加者】

・コロナの水際対策について、他の国は風邪という扱いになっているので、2類から5類となるよう積極的に発言していただきたい。

【知事】

・2類、5類問題は専門家懇談会でも意見出ているが、想定より早くリバウンドしてしまった。高齢者などが感染すると重症化する状況になっており、すぐ5類という議論はまだ難しい。

【参加者】

・全国旅行支援が12月下旬まででは、スキー業者にはメリットがない。

・リフトの更新について国へ支援要請を行った。施設の老朽化は外国人も不安に感じると思う。スノースポーツのメリットをどう活かすか、知事の英断をお願いしたい。

【知事】

・スキー観光について支援していかなければいけないということはいつも考えている。国には年明けの方針を早く出すよう言っていく。

・施設の更新について、長野県内にはいろいろなスキー場があるので、全体を視野に入れて考えていかないといけない。

【参加者】

・スキー場では国の補助が50%。残りの50%を出せるスキー場がいくつあるのか。中山間地の恵まれない場所にスキー場があり、スキー場がつぶれると村がつぶれるということもある。これからどうしていくべきか考えていただきたい。

【知事】

・野沢温泉スキー場と民間の他のスキー場では問題が違うのではと思う。どういう手段があり得るのか考えていきたい。地方財政と補助金を組み合わせるとい形になるのか、我々も問題意識を持つようにしたい。
・国に対しては、新潟や北海道などと協力し要望していきたい。

【参加者】

・グリーンシーズンでの観光は長きにわたり課題となっている。コロナ禍でサイクルブームとなっている。サイクルツーリズムに関連する現状と今後の展望について聞きたい。
・課題は、①人材の育成、②フィールド。私有地が入り組んでおり、使いにくいことがある。県で旗振りをしてほしい。
・冬の山間部サイクリングは、道具の進化ということもあり追い風になっている。

【知事】

・自転車振興はコロナで足踏み状態であった。サイクル目的での誘客は一旦停止になっているので、再起動をしていきたい。
・再スタートに向けて、旗の振り方を考えていきたいので、ご協力いただきたい。

【参加者】

・観光関連の諸課題を実験・検証する長野県版の「観光特区」設定は可能か。観光分野ではDX推進やクリーンエネルギー活用等、課題と可能性は多い。県の施策としても推進すべき点を野沢温泉村を特区として集中的に予算と人材派遣を行って検証し、県内他地域への波及を目指してはどうか。

【知事】

・国の規制が多い中、県でも検討を進めており、エネルギー自立の先行地域を作っていこうと考えている。ご提案についても考えていきたいが、単に脱炭素、DXを掲げるだけでは、全国平均程度となってしまう先行地域となり得ない。

【参加者】

・先行地域という話があったが、国の指定が難しい場合に、県で独自に支援してくれるということか。

【知事】

・国の脱炭素先行地域はほんの一部。県としてやる場合は県独自の指定となるが、脱炭素のみで実施すべきかどうか検討している。

【参加者】

・コロナ後の観光に向けて、設備投資が増えてきている。県のエネルギーコスト助成金の利用が多くされているが、事業者で対応できない工期の問題が出てきているので県でも対応を検討いただきたい。

【知事】

・行政は単年度主義であり、現状のルールの中で対応願いたい。価格高騰対策で行った事業であり、今後の在り方については考えていきたい。

【参加者】

・宿泊税や観光税の可能性について、海外誘客事業を含め持続可能な観光地発展のためには安定的な観光財源の確保が必要である。県として観光関連の目的税などについてどう取り組んでいくか検討いただきたい。

【知事】

・出来るだけ早く方向付けをしたい。受益者に負担していただくのがよいのではないかと考えている。コロナ禍前にも考えていたが止まっている。みなさんからご意見聞きながら進めていきたい。

【参加者】

- ・宿泊税を導入している大阪ではスムーズに進んでいると聞いている。先進地域の例を参考に県でも検討してほしい。
- ・福岡県は、県として宿泊税を制定しているが、北九州市でも制定しており2重で徴収しているようだ。同じようにならないようにしてほしい。

【知事】

- ・北九州市は政令市ということもあり、全然違う権限を持っている。本県の場合は中核市の長野市・松本市とも相談していきたい。

【参加者】

- ・野沢温泉には素晴らしい仕組み、スキー大会運営資金としてスキーに来た方やスキー大会関係者から負担金を徴収した経緯がある。
- ・観光税等については補助金で戻すのではなく、直接観光地へ戻すようにお願いしたい。

【知事】

- ・一部は県財源としたい。あまり制約を設けず自由な財源としていきたいと考えている。

【知事】

- ・女性から選ばれる、子育てしやすい県になるためにどうしたらよいか。
- ・女性や若者に選ばれる方法・女性が活躍できる魅力ある地域にするための方法などご意見をいただきたい。

【参加者】

- ・明石市のように、子育てしやすい環境であることが大切と考える。
- ・観光地の課題としては子どもを預けている時間しか働いてもらえない。夕方以降の人材不足、お客様のチェックインの時間に子供を迎えに行かなければならない。

【知事】

- ・今日、女性がいないのは忙しいからか。地域によってさまざまな生活環境がある。

【参加者】

- ・移住者からは家がない、空き家はあるが賃貸がない、と言われる。
- ・一番足りないのはワンルームマンション。単身向け。

【知事】

- ・移住の課題として、町村部では住宅問題が上げられる。
- ・行政と民間でコラボレーションできれば。住宅の話は考えていきたい。